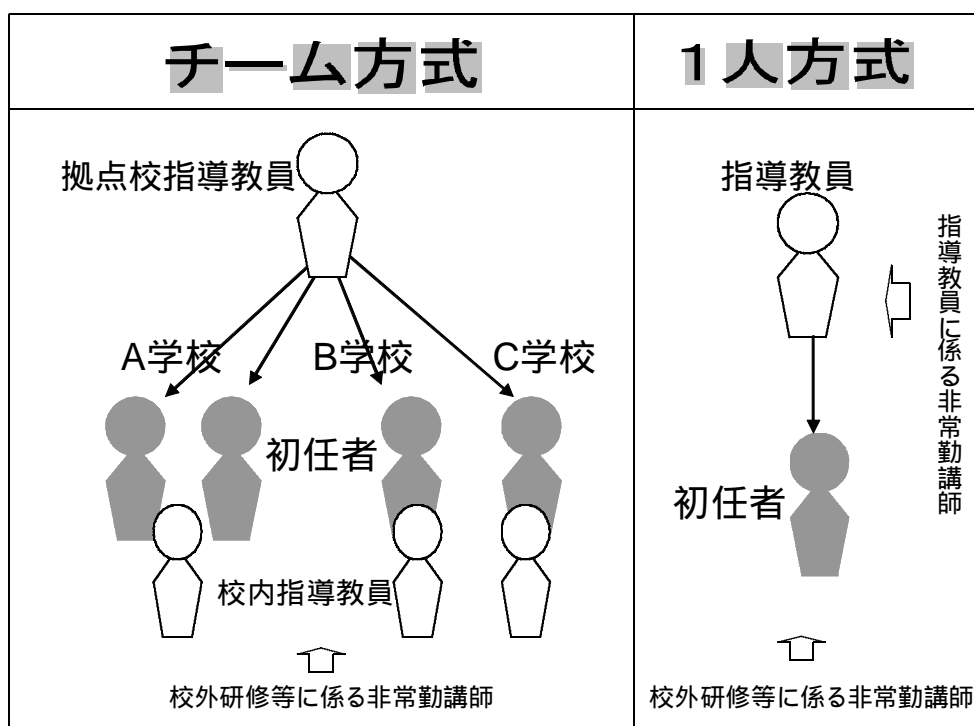


# 平成22年度 初任者研修手引

## 岐阜県の教育を支えるために

－ 小・中学校 **指導者** 用 －

### 拠点校方式



岐阜県教育委員会

教育研修課

# 初任者研修の実施に当たって

21世紀を迎え、社会は情報化、国際化、少子高齢化がますます進んでいます。このような変化の激しい中で、価値観の多様化や人間関係の希薄化にともない、子どもたちの規範意識の低下や社会性の欠如など、憂慮すべき問題が生じてきています。さらには、学力の低下が懸念される状況にもあります。

こうした社会状況の中で、学校教育においては、子どもたちが健康で豊かな心と確かな学力を身に付け、将来、地域や国内のみならず国際社会の一員として、たくましく生きていける力を育成することが求められています。

岐阜県では、「3年間で一人前の教師を育てる」という新任教員養成プログラムのもと、かけがえのない子どもたちの未来を切り拓くため、教育専門職として、教科等の指導に関する専門的知識や高い指導技術はもちろんのこと、深い人間理解と教育的愛情をもち、児童生徒、保護者、地域の方々から信頼される人材を養成することに重点を置いています。

初任者研修は、教師としての資質や能力を高める上で極めて重要な時期に、「実践的な指導力と使命感を養い、幅広い知見を身に付ける」ことを目的として実施される重要かつ意義深い研修であり、とりわけ各学校において実施されている校内研修の充実を図ることが極めて重要です。初任者にとっては、「心の底から鍛えられた」と実感できる場はやはり学校であり、日々の教育実践を共にする職員が一丸となって初任者を育てていこうといった気風は大きな力となっています。「教師としての生き方は、最初に赴任した学校で決まる」とも言われます。一年間の初任者研修が大きな糧となり、初任者一人一人が自ら研鑽し続ける意欲と目標をもち続けられるよう、各学校においては、3年間というスパンで初任教員の成長や課題を見届け、「どの学校においても通用する一人前の教師を育てる」ことを念頭に置いて研修を進めていただくことを期待します。

本書は、初任者研修を組織的・計画的に推進できるよう作成しました。各学校での特質を生かし、有効に活用されることを切に願っております。

平成22年3月

岐阜県教育委員会

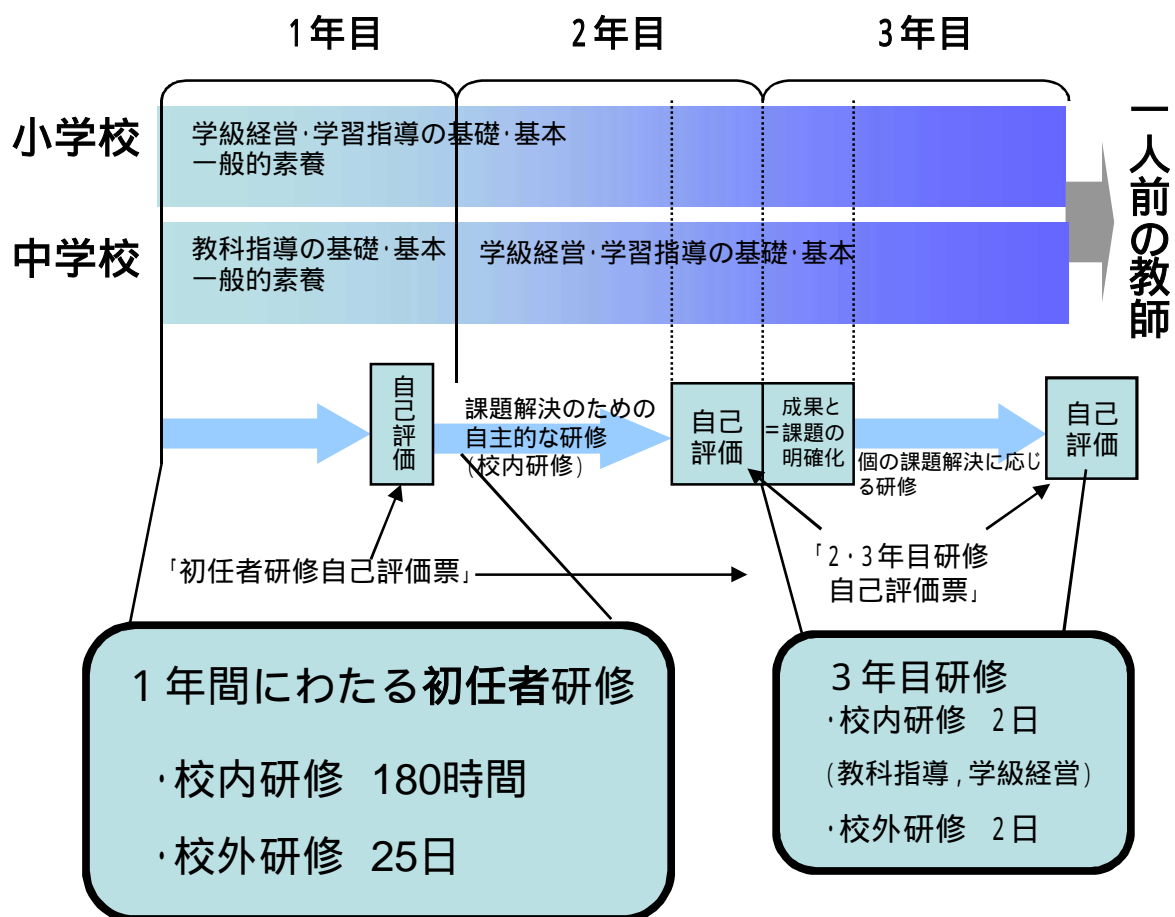
教育研修課長

# 目 次

新任教員養成のための構想	1
チーム方式・一人方式 共通	2
・初任者研修の指導体系	3
・指導体系図	4
・校内研修（180時間） 小学校	5
・校内研修（180時間） 中学校	8
・初任者研修実施校 校長等連絡協議会 指導教員等連絡協議会 実施要項	10
・連携校研修 実施要項	11
一人方式 研修推進の具体	12
・初任者研修実施要項	13
・初任者研修の推進について	15
・年間指導計画の立案	17
・非常勤講師勤務実績簿	27
チーム方式 研修推進の具体	28
・初任者研修実施要項	29
・初任者研修の推進について	31
・年間指導計画の立案	33
・非常勤講師勤務実績簿	42
チーム方式・一人方式 共通	43
・市町村教育委員会用 初任者研修年間研修計画書及び報告書	44
・研修・指導の記録	45
・初任者研修レポート	46
・連携校研修計画書及び報告書	47
・計画書及び報告書等の提出	49

# 新任教員養成のための構想

## “3年間で一人前の教師を育てる”



# チーム方式・一人方式

## 共 通

- ・ 初任者研修の指導体系
- ・ 校外研修（ 2 5 日 ）
- ・ 校内研修（ 1 8 0 時間 ）

小学校における校内研修の内容と時数の事例

中学校における校内研修の内容と時数の事例

- ・ 初任者研修実施校  
校長等連絡協議会 指導教員等連絡協議会 実施要項
- ・ 連携校研修実施要項

## 初任者研修の指導体系

ねらい	教育公務員特例法 2 3 条の規定に基づき，実践的指導力と使命感を養うとともに，幅広い知見を身に付ける。
-----	--

### ( 1 ) 校外研修

教育研修課	教育事務所	市町村教育委員会
主に教員としての責任と使命感や，幅広い知見を身に付けるための研修	主に教科，領域，学級経営等の実践的指導力を高めるための研修	主に地域理解や，勤労・体験等を取り入れた地域に密着した研修
総合教育センター ( 3 日 ) < 指導主事の講話・演習 > ・教師のサービスと使命 ・人間関係づくり 等 < 宿泊研事前研修 > ・ねらい，活動内容等の確認 < 情報に関する研修 > < 外部講師の講話 > ・民間企業の経営者に学ぶ * TV 会議システムの活用 ----- 宿泊研修 ( 3 泊 4 日 ) [ 乗鞍青少年交流の家 ] ・集団づくり ( 小中高の交流 ) ・自己見つめ ・登山 ・創作発表 等	< 例 > 教育事務所研修 ( 2 日 ) 研修校研修 ( 3 日 ) 校種間交流 ( 3 日 ) 配置校研修 ( 2 日 ) 連携校研修 ( 4 日 ) * 拠点校指導教員の計画による。	< 例 > 市町村の教育の方針と重点の理解を図る研修 ( 1 日 ) 施設等を活用した研修 ( 1 日 ) 勤労・体験研修 ( 1 日 ) 地域の実践者に学ぶ研修 ( 1 日 ) * 体験研修を位置付ける。
7 日	1 4 日	4 日

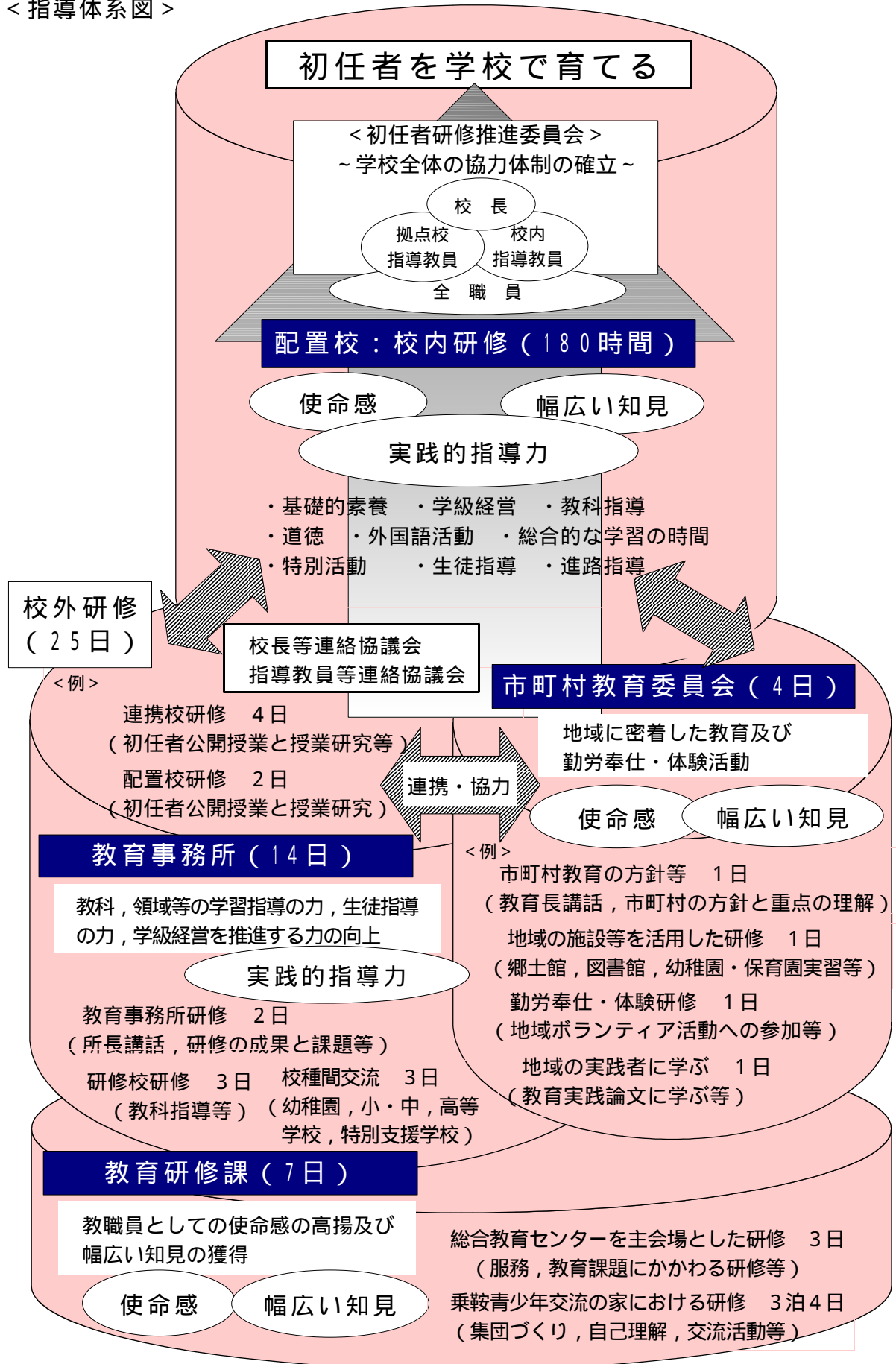
初任者研修実施校 校長等連絡協議会

初任者研修実施校 指導教員等連絡協議会

### ( 2 ) 校内研修

学 習 指 導	一 般 指 導 Ⅱ
教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動 研 初任者による研究授業 示 指導教員等による示範授業 60 ~ 90 時間程度 授 授業研究 ・指導計画の立案・単位時間の学習過程の工夫・学力を高める授業の在り方 ・教材研究について・年間指導計画について・研究授業への臨み方 ・教材，教具の工夫・教育機器等の活用・個に応じた指導の在り方 ・家庭学習の在り方・指導と評価の一体化について 等	基礎的素養 ・学校の教育目標の具現 ・安全管理・事故防止・人権同和教育 ・特別支援教育・食育・PTA 活動 等 学級経営 ・組織づくり・集団づくり・児童生徒理解 ・参観授業と保護者会 等 生徒指導 ・教育相談・いじめ，問題行動への対処等
1 2 0 時間程度	6 0 時間程度
1 8 0 時間以上	

< 指導体系図 >



# 校内研修（180時間）

## 小学校における校内研修の内容と時数の事例

月	一般指導 般（例）	時間	学習指導 研 授 示（例）	時間
4	学校経営方針について 年度当初の学級事務処理について 週案の書き方と活用 学級経営方針と学級目標 朝の会，帰りの会のもち方 P T A活動と保護者会について 事故発生時の措置と対応 学校の運営組織について 家庭訪問の意義と内容	2 2 2 2 2 1 1 1 1	教科 示 授 ・学習指導要領の理解 ・単位時間の学習過程の工夫 ・本時のねらいと評価規準 ・児童の実態 ・学習指導案の書き方 等	6 4
5	学級組織づくり 基本的な生活習慣について 校外学習における危機管理 児童の言語環境について * 4月は，研修のスタートにあたり一般指導の時数が多く，5月は，遠足や校外学習が始まることを踏まえ，危機管理のマニュアル理解や緊急時の対応等については，しっかりと押さえておきたい。	1 1 1 1	教科 研 示 授 ・発問の工夫 ・話し方，聞き方 ・板書の工夫 ・導入と学習課題の工夫 等 道徳 示 ・道徳の目標，主題構成 等	10 5  1
6	学級の掲示物について 児童のほめ方，叱り方 学校，学級環境～掲示物～ いじめ問題の認識と指導の在り方 安全指導～プールでの学習～ 通知表作成について * 児童が，学校生活や学級の仲間関係にも慣れてきたころであることを踏まえ，学級内の人間関係などをもとにした児童理解を深める研修を位置付けることができる。また，プール学習に関する安全指導や心肺蘇生法の研修など，時期をとらえて実施する研修を効果的に位置付けることも考えられる。	2 1 1 2 1 2	教科 研 示 授 ・個に応じた指導について ・ノート指導 ・児童の実態と教材研究 ・支援の仕方と見届け 等 道徳 示 授 ・主発問と補助発問 等 外国語 示 授 ・外国語活動の目標と内容 特活 研 ・行事への取組 ・学級の諸問題への対処 等	8 3  1 1 1 1 2
7	特別支援教育について 所見についての指導 一学期の成果と課題 夏季休業期間の過ごし方 * 特別支援教育については，個別の指導計画の作成・実施・評価に関する研修や，特別支援学級や通級による指導における教育課程の編成などに関する研修を位置付けることができる。	2 1 1 1	教科 研 示 授 ・少人数指導，TTについて ・教えること，考えさせること ・話し方，聞き方 ・評価問題について 等 総合 示 ・全体計画の内容	6 2  2
8	* 一学期の研修記録の整理，宿泊研修の準備，二学期に向けての課題等について助言する。	0	教科 授 ・教材教具の作成と教材研究	4
一学期累計		32	一学期累計	57
	般 * 基礎的素養 15 * 学級経営 12 * 生徒指導 5		教科 48 道徳 3 * 研 示 37 外国語 2 * 授 20 総合 2 特活 2	

9	<p>不登校児童への理解と援助 運動会への取組と学級経営 リーダーとフォロアーの育成 児童の認め方と励まし方</p> <p>*夏休み明けの児童の様子をとらえることや、この時期に多くなる傾向がある不登校児童に関する研修を位置付けることができる。また、運動会を学級経営とのかかわりでとらえるための研修や、運動会を通してリーダー層を育てたり、仲間と一つのものをつくり上げたりすることなどに目を向けた研修を位置付けることができる。</p>	2 1 2 1	<p>教科 研 示 授 ・一斉指導と個別指導 ・主体的な学習の工夫 ・理科実験について(安全) ・教育機器の活用 等</p> <p>道徳 示 ・他の教育活動との関連 等</p> <p>特活 研 ・運動会への取組 等</p>	3 2  1  1	
10	<p>特別支援教育について 学校保健について 食に関する指導 個別懇談の目的と内容 個別懇談資料づくり</p> <p>*学校保健については、健康の保持増進に努める態度や意欲を育てる方法や実際の指導についての研修を位置付けたり、食に関する指導については、食育の意義やねらいを理解したり、学校給食に関する指導の在り方を学ぶ研修を位置付けたりすることができる。また、「外国語活動」、「環境教育」、「国際理解教育」、「キャリア教育」など、さまざまな教育課題についての研修を位置付けることもできる。</p>	1 1 1 1 1 2	<p>教科 研 示 授 ・個のよさを伸ばす指導 ・児童の側に立つ指導 ・本時のねらいと児童の実態 ・話し方、聞き方 ・評価規準を指導に生かす 等</p> <p>道徳 研 示 授 ・道徳的実践と道徳的実践力 等</p> <p>特活 研 授 ・特別活動のねらいと評価 等</p>	6 2    2 1  2 2	
11	<p>人権同和教育の現状と課題 教育相談と児童理解 学級通信の生かし方 教室の環境整備</p> <p>*「教育週間」や12月の「人権週間」等にかかわる研修、問題行動・事故発生時や緊急対応等、具体的事例に学ぶ研修を位置付けることができる。その他、研修者の実態に応じて特に必要と思われる研修を位置付けることができる。</p>	1 2 1 1 2	<p>教科 研 示 授 ・学習集団の指導について ・板書の構造化 ・学び方の指導 ・机間指導のポイント ・教材の系統性と発展性 等</p> <p>道徳 研 示 授 ・家庭・地域との連携 等</p> <p>外国語 示 ・日本と外国の言語や文化</p>	8 3    2 1  1	
12	<p>所見指導 学習評価の在り方 二学期の学級経営の成果と課題 冬季休業期間の生活指導について</p> <p>*25日間の校外研修もほぼ終了し、校内研修も終了に近づいている段階であることを踏まえ、これまでの研修の成果を振り返らせ、新たな目標の設定ができるよう助言したい。一般研修の内容は、評価等にかかわる実務に関連することを位置付けることができる。</p>	1 1 1 1 1	<p>教科 研 示 授 ・評価規準と評定 ・体験的学習の位置付け ・要援助児童への配慮と指導 ・提示、演示、実験等の工夫 等</p> <p>総合 研 示 授 ・探究的な学習の在り方 等</p>	4 1    2 2	
二学期累計		2 2	二学期累計		4 6
般	<p>* 基礎的素養 6 計</p> <p>* 学級経営 1 1</p> <p>* 生徒指導 5</p>	5 4	<p>教科 2 9</p> <p>道徳 7 *研 示 3 2 計</p> <p>外国語 1</p> <p>総合 4 *授 1 4</p> <p>特活 5</p>	103	

1	<p>特別支援教育（発達障がい等） 三学期の学級経営について</p> <p>*学級経営にかかわるまとめの研修を位置付けたり，一人一人の児童をどのような姿で次年度へ進級させたりするか等，具体的な見直しをもつことができる研修を位置付けることができる。特別支援教育については，児童一人一人の教育的ニーズの把握し，その持てる力を高め，生活や学習上の困難を改善又は克服するため，指導の在り方についての研修を深めることが大切である。</p>	1 1	<p>教科 研 示 授</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な資料の提示と活用</li> <li>児童の反応のとりえ方</li> <li>話し方・聞き方</li> <li>作品評価の仕方</li> <li>児童の学習状況の把握</li> </ul> <p>等</p> <p>道徳 研 授</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に生かす資料分析</li> </ul> <p>総合 示 授</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオ評価</li> </ul> <p>等</p> <p>特活 示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奉仕・体験活動の意義</li> </ul>	3 1  1 1  1
2	<p>学級懇談会の在り方 指導要録の記入の仕方について</p> <p>*2月，3月は校内研修の総まとめの時期であることを配慮して，年度末に必要な事務処理に関する研修や，自己の研修を振り返り，次年度へ向けての課題を明確にするための研修を位置付けることが考えられる。</p>	1 1	<p>教科 研 示 授</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補充的，発展的な学習について</li> <li>「確かな学力」の育成</li> <li>意欲を高める学習指導</li> <li>授業改善の視点</li> <li>授業実践の成果と課題</li> </ul> <p>道徳 研 授</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験活動の充実</li> </ul> <p>外国語 示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画と内容の取扱いについて</li> </ul>	3 2  1 1  1
3	<p>年度末の事務処理について 次年度へ向けての課題</p>	1 1		0
三学期累計		6	三学期累計	
般	<p>* 基礎的素養 4</p> <p>* 学級経営 2</p> <p>* 生徒指導 0</p> <p>計 60</p>		<p>教科 9</p> <p>道徳 4 *研 示 1 1 計 120</p> <p>外国語 1</p> <p>総合 2 *授 6</p> <p>特活 1</p>	
60時間	<p>基礎的素養 25時間</p> <p>学級経営 25時間</p> <p>生徒指導 10時間</p>	120時間	<p>教科 86時間 研 示 80時間</p> <p>道徳 14時間</p> <p>外国語 4時間</p> <p>総合 8時間 授 40時間</p> <p>特活 8時間</p>	

<p>60時間の内訳は， 基礎的素養・・・20～25時間程度 学級経営・・・25～30時間程度 生徒指導・・・10時間程度</p>	<p>120時間の内訳は， 研 示 で，60～90時間程度 教科指導で，75～95時間程度</p>
---	---

- \*一般指導については，各学校及び初任者の実態等に応じて各学校が主体的に研修内容を決定し，計画するものとする。
- \*校内研修にかかわる時数については，標準を示している。各学校の実態や研究内容，初任者の取得免許（教科等）を考慮して，標準時数の範囲内で決定することが望ましい。
- \*一般指導の学級経営に関する研修と，学習指導の特別活動に関する研修は関連していることを考慮する。

# 校内研修（180時間）

## 中学校（専科）における校内研修の内容と時数の事例

月	一般指導 般（例）	時間	学習指導 研授示（例）	時間
4	学校運営の方針と重点 学校運営組織と校務分掌について 学級開きについて 学年の運営方針と学年目標 週案の意義と活用について 朝の会，終わりの会について P T A活動について 家庭訪問の在り方	1 1 1 1 1 1 1 1	教科 研 示 授 ・年間指導計画と学習指導要領 ・生徒の関心を引きつける話し方 ・生徒の実態把握の仕方 ・上手な聞き方，話の引き出し方 ・教師の立つ位置，目線 等	3 3
5	校区の実態，生徒の実態について 学級組織づくりについて 健康安全指導について 学校行事と学級経営 基本的生活習慣の指導 学校図書館の活用について	1 1 1 1 1 1	教科 研 示 授 ・生徒の反応のとらえ方 ・本時のねらいと評価規準 ・観点別評価と絶対評価 ・導入と学習課題の工夫 特活 示 授 ・特活の目標と内容 等	8 4    1 1
6	危機管理対応についての理解 日常的な教育相談の在り方 部活動の指導と安全対策 学級掲示物の意味と役割 評価と成績処理について 教育通信記入上の留意点 生徒理解と生徒指導	1 2 1 1 1 1 1	教科 研 示 授 ・個に応じた指導の在り方 ・少人数指導について ・テスト問題と評価について ・自校の研究主題と授業 道徳 示 授 ・道徳の目標と内容項目 等	7 4     1 1
7	生徒会活動について いじめ問題への対応 特別支援教育（発達障がい） 夏季休業期間の生活指導	1 2 1 1	教科 研 示 授 ・累積的評価の評定への総括 ・学習指導内容の構造化 ・教える内容と考えさせる内容 ・ノート指導 ・見届けと指導・援助の仕方	6 2
8	*一学期の研修記録の整理，宿泊研修の準備， 二学期に向けての課題等について助言する。	0	教科 授 ・教材教具の作成と教材研究	4
9	不登校生徒への理解と援助 体育大会と学級経営 問題行動のある生徒への対応 家庭学習の意義 学校と家庭との連携について 教育機器の効果的な活用	1 1 1 1 1 1	教科 研 示 授 ・学習指導要領の理解 ・主発問と補助発問 ・板書の工夫 道徳 示 授 ・主題構成の仕方 特活 研 示 授 ・学級指導の在り方	6 2    1 1 2
10	学級リーダーの育成 食に関する指導 総合的な学習の時間の指導 人権同和教育の現状と課題 進路指導（キャリア教育）の在り方 生徒理解と教育相談	1 1 2 1 1 1	教科 研 示 授 ・評価規準の活用 ・机間指導のポイント ・資料の提示，効果的な活用 道徳 研 授 ・道徳的実践力の育成 総合 研 示 授 ・総合的な学習の時間の評価について	7 3    1 1 2

11	開かれた学校（教育週間） 文化祭の取組と振り返り 保護者への対応と家庭との連携 学校保健室の利用と生徒理解	1 1 1 1	教科 研 示 授 ・学習集団の指導について ・自ら学ぶ態度の育成 ・学び方の指導について 総合 研 示 授 ・総合的な学習の時間の展開について 特活 研 示 授 ・特活の単位時間の指導過程	7 3  1 1 1 2
12	三者懇談の意義ともち方 進路相談の在り方 生活記録を生かした学級経営 支持的風土が醸成された学級経営 評価と指導要録 冬季休業期間の生活指導	1 1 1 1 1 1	教科 研 示 授 ・個の学習状況の把握の仕方 ・選択教科について ・補充的、発展的な学習について ・要援助生徒への支援 ・個のよさを生かす授業展開 ・一斉指導と個別指導	7 3
1	不登校生徒への理解と援助 道徳教育と道徳の時間 地域ぐるみの道徳教育 学級集団の規律の形成 特別支援教育の推進 学級通信と学級経営	1 1 1 1 1 1	教科 研 示 授 ・自作教材の作成 ・学習を深化させる指導 ・「確かな学力」の育成 ・教材の系統性と発展性 ・ねらいとまとめの工夫	7 3
2	担任実習（朝活，給食，終活） 担任実習（朝活，給食，終活）	1 1	教科 研 示 授 ・意欲を高める学習指導 ・授業改善の視点 ・授業実践の課題と成果 道徳 研 示 授 ・道徳の資料分析と展開 総合 研 示 授 特活 研 示 授 ・学級の諸問題への対処	3 3  1 1 1 1 1
3	学年度末の事務処理について	2	教科 研 示 授 ・一人一人が輝く授業	1 1
60 時間	基礎的素養 29 学級経営 16 生徒指導 15	60	120 時間 研 示 75 授 45	120

60時間の内訳は， 基礎的素養・・・25～30時間程度 学級経営・・・15～25時間程度 生徒指導・・・10～15時間程度	120時間の内訳は， 研 示 で，60～90時間程度
--	-------------------------------

- \* 一般指導については，各学校及び初任者の実態等に応じて各学校が主体的に研修内容を決定し，計画するものとする。
- \* 校内研修にかかわる時数については，標準を示している。各学校の実態や研究内容等を考慮して，標準時数の範囲内で決定することが望ましい。
- \* 初任者が学級担任をもつ場合は，小学校の時数例示を参考にして計画を立案する。

平成 22 年度

初任者研修実施校 校長等連絡協議会・指導教員等連絡協議会

### 実施要項（小・中学校）

#### 1 ねらい

初任者研修実施校の校長，（チーム方式においては）拠点校指導教員及び校内指導教員，（一人方式においては）指導教員に対して研修の内容を徹底するとともに，実施校相互の連携及び情報交換等により，初任者研修の円滑かつ効果的な実施を図る。

#### 2 協議内容

##### （1）実施内容の理解及び実施校相互の情報交換について

- ・初任者研修の内容・方法の在り方
- ・初任者研修の実施上の諸問題の交流
- ・連携校研修のプランづくりについて

##### （2）1年間の成長段階に即した指導について

- ・学校の実情に配慮した年間指導計画の立て方
- ・専門職としての基本的事項及び配慮事項に係る指導の在り方
- ・各学校との初任者研修に係わる連携及び効果的な連携校研修の在り方

#### 3 参加者

〔一人方式〕

- ・校長，指導教員（\*非常勤講師が指導教員の場合は，代理の者が出席する。）

〔チーム方式〕

- ・校長，拠点校指導教員，校内指導教員

#### 4 校長等連絡協議会（教育事務所ごとに年1回を原則）

内	容
・初任者研修の周知 ・非常勤講師の適正な運用 ・拠点校指導教員，校内指導教員，指導教員の役割	・連携校研修について ・初任者の研修状況 ・校内研修の活性化 ・校内研修の在り方と校内の協力体制 ・実施上の諸問題 等

#### 5 指導教員等連絡協議会（教育事務所ごとに年2回を原則）

一人方式においては原則として指導教員，チーム方式においては拠点校指導教員と校内指導教員が参加する。

回	内	容
一回目	・初任者研修の周知 ・拠点校指導教員，校内指導教員，指導教員の役割と主な職務内容 ・指導計画の作成に関する配慮事項 ・非常勤講師等との連携 ・連携校研修のプランづくり	・連携校研修について ・指導時間の確保と指導の実際 ・教科指導の研修の在り方
二回目	・意欲的な研修を促す指導・助言・初任者の力量や特性，悩みに対応した指導の在り方 ・校内体制を生かした研修の実際・研修のまとめにおける指導（研修事項の整理等） ・連携校研修の実施状況と課題 等 ・研修実施報告書（連携校実施報告書）の作成について	

指導教員等連絡協議会の開催の仕方は，各教育事務所により異なる。

## 連携校研修 実施要項 (小・中学校)

### 1 ねらい

- (1) 主に授業参観及び授業公開をすることを通して、初任者相互が授業力を磨き合い、教科及び領域等の実践的指導力の向上を図る。
- (2) 地域や学校及び初任者の実態に応じた研修を企画、実施することにより、きめ細かい研修内容の充実を図る。
- (3) 拠点校指導教員の指導力向上と、各校の協力指導体制、校内指導体制の連携、強化を図る。

### 2 連携校の対象

拠点校指導教員が担当する2～4校の初任者。指導教員一人方式で実施している学校については、最寄りの連携校研修に参加して行う。

### 3 研修日程

校外研修の4日間として、各連携校の都合等により研修日程を決定する(ただし、他の校外研修等と重ならないように留意して火曜日を研修日とすることを原則とする。また、夏季休業期間に4日間のうち1日を研修日として設定してもよい)。

### 4 連携校研修の計画書及び報告書

- (1) 拠点校指導教員は、各連携校の校内指導教員と連携して連携校研修の計画書及び報告書を作成し、本務校及び兼務校の校長の指導・助言を得る。
- (2) 拠点校指導教員から連携校研修の計画書及び報告書の提出を受けた本務校の校長は、その計画書及び報告書を市町村教育委員会に提出する。
- (3) 市町村教育委員会は、連携校研修の計画書及び報告書を県教育委員会に提出する。

### 5 研 修

- (1) 校外研修25日間のうち4日間を連携校研修とする(研修は終日を原則とするが、各校の実態等に応じて、半日研修も可とする)。
- (2) 拠点校指導教員の指導・助言のもと、毎回テーマをもって、教科及び領域等の実践的指導力を互いに磨き合うことができるような研修を企画、実施する。校長や教頭、他の教諭等の指導・助言も位置付けることが望ましい。

#### 研修内容の具体的事例

##### 公開授業と授業研究

- ・初任者A(2回目はB・・・)による公開授業、授業研究
- ・会場校校長、拠点校指導教員等による指導・助言

##### 授業参観と授業研究

- ・視点をもって先輩の授業を参観、授業研究や学んだことの交流・共有
- ・会場校校長、拠点校指導教員等による指導・助言

##### 教材研究や実践交流

- ・教材や教具等の作成
- ・簡単なテーマレポートや実践レポートを持ち寄り、実践交流をする。

～ の研修内容から、学校や初任者の実態に応じて研修内容を企画する。

### 6 その他

連携校研修については、各校より提出された計画書の日程等に基づいて実施されるよう、教育事務所より、市町村教育委員会、各校長あて文書依頼をし、それに基づいて実施するものとする。